

Boys, be ambitious!

2023 秋号 vol.35

甲府一高通信

REIWA

R5 No.2

あらたな一歩を踏み出そう！

FIRST STEP

Kofu First High School

令和五年 九月三十日・十月二日 実施

甲府一高 強行遠足特集

第九十五回 強行遠足 体験文より

歩く。ただ歩く。黙々と。粛々と。

それがこんなにも特別だ。(三年 男子)



強行遠足出発点

山梨県立甲府第一高等学校



大泉前のものすこい坂でもうやめよう
 と思い、友達と検印所で休んだ。そのと
 き友達が、家族に申し訳ないと話してい
 て、それが私の心にも刺さった。こんなと
 ころで諦めていて、絶対完走してねと
 言ってくれた子にはどう説明しよう。そ
 の瞬間、次の野辺山まで頑張ろう。そ
 う決意した。自分が思っていた限界は、
 限界ではなく、ただ自分が諦めるため
 の口実だった。(二年男子)

もう理由をつけて逃げるのはやめようと思っ
 た。雨だから、一時間遅れでスタートだから、
 終了時刻は変わらないから：条件はみんな
 同じ。これができない理由にはならない。これ
 は試験だ。乗り越えた先には何があるのか。
 とてもワクワクした。(三年女子)



疲れ切った身体でたり着いたまきば給水所では、吹奏楽の演奏から大きな元気をもらった。音楽や人のすばらしさをとても大きく感じた。これから先の、私が進んだことのない道を歩くため、背中を押してくれた。(三年女子)



一人で歩いている時間が多々あった。そのときはすこ
 くつらかった。普段はあまり人に話しかける性格で
 はないが、「一緒に歩いてもいいですか」と誘った。同
 学年だけでなく、先輩や後輩とも歩いた。一人のと
 きは百倍くらい力が出た。(二年男子)



絶対にゴールすると本気になればなる
 ほど辛い。まさに茨の道。だが茨の道に
 も道はあり、その道を着実に歩めば目
 標を達成できる。(二年男子)

「大丈夫?」「あと少しだから頑張っ」後ろから
 きた三年生の先輩方の声でした。先輩方は、ミカン
 味の飴や芍薬甘草湯まで渡してくれました。その
 温かいことはやさしさにとても心が晴れ、痛みも
 和らいだ気がしました。(二年女子)



「人生は短距離走ではなく、永遠に続くマラソンである」という名言が
 ある。短距離走では転倒することは致命的だが、長い距離で転んでも
 追いつくことはできる。強行遠足でも同じだ。(二年女子)

私は七つのおにぎりを持って
 出発しました。帰りのバスで、
 母の作った最後のおにぎりを
 食べました。最後まで元気を
 もらえるような優しいおにぎ
 りです。食べたあとはバス
 の中で眠りにつきました。絶対
 に来年もゴールしたいと強く
 願いながら。(二年女子)



つらくて長い道のりだった。
 情けない思いも悔しい思い
 もした。ただ、もう一度あの
 夜を過ごしてみたいと思う。
 もう一度、弱さと戦って、
 今度こそ勝ちたいと思う。
 もう二度とやりたくはない
 けれど、もう一度だけ歩き
 たい。(三年男子)



女子のゴール、野辺山に変更。本来なら距離が短く
 なって嬉しいと思うことを、
 私は悔しいと思うように
 なっていた。自分の限界を
 突破すること、耐えるこ
 と、向き合うこと、そして
 強い自分になること。これ
 らを体験しなくても生きて
 いくことはできるが、体
 験したからこそ、新しい道
 に進んだり、他の人がしな
 いことをやってみる自信が
 つくと思う。その姿が、番かっ
 こいい姿だ。(三年女子)

